

「多賀城発で多賀城着。」

「tag(たっぐ)」は多賀城をもっとよいまちにしていきたい、社会や地域のために何か活動したいという方を応援する月刊フリーペーパーです。

# となりの友達を理解することから はじまる国際交流



▲中国からの留学生と一緒に茶道を体験。

多賀城市国際交流協会ジュニア部は、1998年に子どもたちの地域活動支援としてはじまりました。社会にはいろいろな文化の人が一緒に暮らしていること、外国の人に限らず、お互いの違いを認めあうことの大切さを伝えていきます。

部長の内浦恵美子さんは、「活動開始時と比べ、学校と家庭以外の人と関わる機会が少なくなり、コミュニケーションに困難を抱えた子どもが増えたように感じる」と言います。活動では、さまざまな年代・国籍の人と過ごす中で、他人に優しく接することが自然にできるようになっています。今後、小学校で英語が教科化されますが、言葉が通じなくても相手を理解しようとするのが大切であることを、これからも伝えていきたいそうです。



▲ジュニア部では料理もつくります。この日つくったのは、モンゴル風餃子「ホーショール」。



▶モンゴルの民族衣装を試着中。かっこいい帽子ですね。

◀フィリピンの恵まれない子どもたちの現状を学び、クリスマスカードをつくりました。



Hint from \*Tagasapo Press\*

## ヒント from たがさぼPress

たがさぼのブログから、地域づくりに役立つ記事をご紹介します！

- 2018年5月15日(火)掲載 / ESG投資とは
- 2018年5月24日(木)掲載 / 人が集まる、まちの中の本のあるスペース・イベント
- 2018年5月31日(木)掲載 / マスキングテープで点字の理解を広げよう

### “たがさぼPress”とは？

たがさぼスタッフによるブログ。興味がわいたらたがさぼPressへ！  
<http://blog.canpan.info/tagasapo/>



「tag」のアンケートへご協力をお願いします！



今後の誌面づくりの参考にしたいと思いますので、ぜひご協力をお願いします！

また、以下のような情報もお待ちしています！

- 自分たちの団体を取材してほしい
- ユニークな活動や、地域のためにがんばっている団体・人を知っている
- こんな話題を取り上げてほしい

Notice from Tagasapo

## たがさぼからのお知らせ

たがさぼが企画する「一歩ふみだすきっかけ」をご紹介します

### 「たがさぼ文庫」新着図書のご案内

たがさぼの図書スペース「たがさぼ文庫」に新しい本が入りました。NPOや町内会についての本など普段あまりお目にかかれないものもあり、何かをはじめるときかけになるような一冊と出会えたり、活動の参考になるようなヒントや新たな視点も得られます。一部の図書をのぞいて貸し出しも行っていますので、ぜひご利用ください。

- N女の研究
- 非営利団体の資金調達ハンドブック
- 先生と親のためのLGBTガイド
- 注文をまちがえる料理店のつくりかた
- 90歳ヒアリングのすすめ
- あそびの生まれる場所
- 魔法をかける編集
- 新しいパパの教科書



# 一人ひとりを認めることが「やさしいまち」の第一歩 ～「たがじょうのミライ」に向けて③～

今年、たがさぼは開館10周年を迎えました。7月22日(日)の記念イベントに向けて、「たがじょうのミライのことをはなそう」と題して市民のみなさんの想いや考えを出しあうイベントを行ってきました。今回はvol.3の様子を紹介します。

もろったやさしさ、  
みんなにあげたいな



## 1 みんなにやさしいまちって？

6月23日(土)に開催したvol.3のテーマは「みんなにやさしいまちにするカギ」。今回は、さまざまな理由で「暮らしづらさ」を感じている人へのサポートを行っている方をゲストに迎えるとともに、仙台で不登校生徒と家族の支援を行っている土佐昭一郎さんによるコーディネートで「もっと暮らしやすくなるいいな」「みんなにやさしいまちって、どんなまち？」そんな想いがかたちになるカギを探りました。



約20名が参加。多賀城市内外で高齢者、地域の子ども、障がい者、被災者などの支援活動に取り組んでいる方の参加もありました。

## 3 人として「認める」ことの大切さ

お二人のお話のあとは、参加者のみなさんから感想や普段感じていることを伺いました。感じている「暮らしづらさ」に、本人や周りの人たちがどのように対応しているか、さまざまな取り組みや「こうしたい」「こうなるといいな」という想いが出てきました。また、発達障がいのある当事者・支援者ではない立場の人からは、「どう対応すればよいか分からず遠慮してしまう時もある。手の差し伸べ方を知っていききたい」というお話もありました。最後に再びゲストも交えて「一人ひとりを認める、受容する」ことについて話しました。同じ「認める」でも、取り組みや体験、その時の状態によって多様な「認め」方がありました。内浦さんからは「人によって違いはあって当然で、違いを感じて認めることが大事」、本郷さんからは「認められた経験がないと、他を認められない。認めることのできる『輪』を広げたい」というお話がありました。この日のまとめとして、みなさんのお話から感じた「みんなにやさしいまちにする『カギ』」を発表しました。

コーディネーターの土佐さん。特定非営利活動法人ミヤギユースセンターの理事長を務めています。

内浦さん「多文化共生の原点は、人を認める、否定しないこと」

本郷さん「発達障がいのある子どもが思っていること・考えていることを知るために『通訳』が必要」

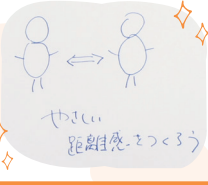
## 2 「やさしいまち」の下地をつくる

一人目のゲストは本郷佳江さん。発達障がいのあるお子さんに「どのように関わればよいか？」と悩み、学んだり気軽に話す場があればと考えていました。そして4年前に同じ悩みを持つ人たちとハッピーピースを立ち上げ、発達障がいについて学ぶ場や悩みを語りあう場をつくってきました。その後、幼稚園・保育所の先生など支援する側も悩みを抱えていることを知り、現在は支援者向けの勉強会も行っています。

二人目のゲスト・内浦恵美子さんは、多賀城市国際交流協会のジュニア部部长をしています。活動をはじめた当初は英語に触れたい・学びたい子どもがほとんどでしたが、最近は友達がなかなかできないなど学校に居づらさを感じている子どもの参加もあります。内浦さんも、ジュニア部はさまざまな子どもたちの居場所としても活用できると考え、過ごしやすいつづりに努めているそうです。

### こんな「カギ」が出ました

- みんな違ってみんな良い
- まじりあうこと
- 人とかかわりを大事にする
- その人のやさしさを見つめる
- 理解者がたくさんいることを伝える！



### たがさぼ開館10周年記念イベント 「うれしい・たのしいから見つける未来のカギ」

7月22日(日) 10:00～16:30 / たがさぼにて

10:00～14:00 たがさぼの七夕雑貨市  
13:00～16:30 トークイベント

ゲスト：西川正さん(コミュニティワーカー/認定特定非営利活動法人ハズオン埼玉理事)ほか  
お申し込みはQRコードからどうぞ！



What's ?



「tag」には、多賀城(tagajo)の頭3文字、みんながタッグを組んで地域をつくる、多賀城に新しいタグ(価値)をつける、という意味が込められています。



@tagasapo  
たがさぼのツイッターへのフォローをお願いします！



http://www.tagasapo.org/  
2018年4月にリニューアル！  
「たがさぼ」のホームページはこちら